丽

テ書

中亦

植物學

語

にへ前

述ノ如ク實ニ支那ニテ作リシ

毛

ノニ

**シ** 

テ蓋シ咸豐八年出版ノ李善蘭筆述ノ「植物學」ニ剏

而シテ植學啓原

( 介質ニ天保四年ノ出版

ナリ

植學

ŀ

日ヒ植物學ト

日フ共ニ

同ジク Botany 即

チ

Botanica ノ譯語ナリ而シテ植

\_

ーテ作者

植學啓

原

ノ著者ナル宇田川榕菴氏ナリ同書ノ序文(原ト漢文)ニ日

ŋ

本艸アリラ植學ナキナリ斯ノ學アリテ其書アルハ實ニ我ガ東方榕菴氏ヲ以テ濫觴

細亞東邊ノ諸國タ

24

途ヲ講ズルモ亦極メテ容易トナレリ是レ竹類ノ根本的調査ノ完了セルガ爲メナリ ノ整頓セ B n -シ ベキ 拙 v モ 者 マラ信 ノナリ而シテ今日ハ尙一層完全ニ其研究出來居リ從テ其種類モ ハ殆ド其種類ヲ研究シ 竹 ゼリ先キニ農商務省山 類 調

盡

セ

リ從テ標本頗

jv

完全ニ

蒐集サレ

ア リ是

v 亦

有用植

有

崩

. 林局ヨリ佛

國

パリー萬國博覽會ニ出陳サレタル

竹品

ハ爥ヲ承ケテ

亦之ョ

リ増加セ

リ故

利用

1.ノ外尙管見アレドモ先ヅ此ニ其主ナル

モノト要旨ヲ記載

也

ij

我邦竹

v

圍

## 〇植學ノ語ハ日本ニテ作リ植物學ノ語ハ支那ニテ製ス

牧 野 富 太

鄓

學ノ語 ハ我日本 = テ作

y

シ

æ

ナ

スト云フ客嘲テ日ク植學 ノ學之ヲ別テ植學ト日 ル哉客ノ言ャ請フ近ク譬ヲ取ン云云 ハ即チ本艸ノミ況 ٤ 動學 ŀ 日 ۲ 山物之學 ャ 其名古へニ見ぶ而シテ杜撰之レヲ命ズ妄モ亦甚ダシト余謂ラク ŀ Ė 「フ云云

叉日ク

齷齪ナ

辨物

植學ノ語ハ日本ニテ作リ植物學ノ語ハ支那ニテ製ス

我邦明治ノ初年前後 ノ文アリ 故二草木ノ性ヲ知ルヲ植物學第一ノ要事ト ニハ世人能ク植學ノ語ヲ用ヰタリシガ後植物學ノ語ヲ常用スルニ

ヨリ正當ノ見ニ非ザル

ナリ是レ本草ハ植物學

ŀ

·同意義

アラザレバナリ

セ

Æ

,

アリ

ŀ

雖 ドモ 廢

至テ植學ノ名ハ漸次ニ

レテ遂ニ之ヲ聞カザルニ至レリ又同ジク明治ノ初年ニハ本草學ノ語ヲ植物學ニ代用

ナス(原ト漢文)

## ジチョコレート」

又「チョコレート」ノ名ハ最早既ニ吾人ノ耳ニ慣レタモノトナツタ

近來我邦デモ大分「チ"コレート」ヲ賞用スル人ガ殖エタノデ坊間ノ西洋食料店ナドデハ何處デモ之ヲ賣ヲ居ル

牧 野 富 太 郎

ちょこれーとのきへ南米ノブラジル並ニ南米北部ノ諸國、中部亞米利加、 ちょこれーとのき即チかかやのきハあをぎり科中ノかかや族 (Buettnerieae)ニ屬シ學術上ノ名稱ハ 此いち"これーとのさ一名かかおのさニ生ル果實中ノ種子カラ製スルノデアル今下ニ精シク話ソウ テ本品ガ此屬中デー番早ク知ラレタ種デアル Cacao L.デアル又Cacao sativa Lam. Cacao Theobroma Tussac. 及ビ Cacao minus Gaerra. ノ異名ヲ有スルソシ 西印度ノ諸島、 メキシ コノ原産デ Theobroma

行 發

ちょこれーとのさハ餘リ大キナ喬木デハナクテ凡一丈牛乃至三丈ノ高サニ成長スル、 テ居ル此 ガ今ハ廣ク新舊兩世界ノ熱帶地ニ ノ如キ栽培品 ノ中ニハ數個 栽植セラレテ居ル其中デモ西印度諸島中ノ或ル島々デ ノ變種モ出來テ居レバ又特種品 モ生ジテ居 w 枝い膚ガ平滑デ灰色或 ハ最モ盛ニ之ヲ作